

# 全鍍連青年部会 全国青年部会長会を開催

日時：2026年2月25日（水）14:00～16:15

場所：機械振興会館 6D-4



御船全国青年部会長、山崎会長、清水副会長、金森担当委員長が挨拶を行った後、鴻野青年部副会長が司会を務め議事に入った。

## 近況報告

「東京組合の人材採用状況・価格転嫁状況」

発表：東京組合 東雲会会長 神谷氏



東京組合は小規模企業（従業員10人以下）が多く、価格圧力は相対的に少ないが景況は二極化。廃業も一定数発生。廃業先が抱えていた客先が新規受注となり仕事量が増加している企業もある。求人に関しては、やはり基本給の金額が重要であり、新規採用時29万円程で採用。また、求人広告費の高騰（Indeed等で月120万円見積提示）。実運用は50万円で週3-4名面接を継続も若年層応募は乏しく、35-45歳中心。初任給引上げに伴い既存社員の賃金整合性調整が不可避。1月採用2名のうち1名離職、追加1名で計2名定着。

## 「自動車関連の受注状況・価格転嫁状況」

発表：愛知組合 名鍍会会長 竹中氏

受注は堅調だが利益確保が困難。愛知組合内では自動車関連が7-8割、その他、雑貨・建築もある。ティア3-4中心でコスト根拠提示要求が厳しく交渉難。価格転嫁資料の詳細により、めっき工程のブラックボックスが可視化する恐れがあり価格転嫁率は体感50%程度、光熱費等に限った5%のみの上げに留まる事例あり。賃上げ難航。人件費反映の共通ベース不足、強気交渉は文化的に難しい。



## 「四青会の活動状況・四国内での全鍍連青年部会への関わり方」

発表：四国組合 四青会会長 小松氏

四国で14社、青年部11社/11名。年3回の定例会を持ち回り開催し参加率向上。工場見学や本年度は九州との交流を実施。研修旅行は青年部主催で組合全社・従業員も参加可能。全鍍連青年部会では、地方の青年部で開催する事が難しい事業をお願いしたい。

## 青年部会の目的再定義と事業内容についての説明

- 活動目的は若手が率直に意見交換できる全国的な場の提供。
- 今後の青年部会の事業は「全国大会」「先輩経営者との意見交換会」霞が関子供デーへの応援」「総会」「常設委員会」が中心となる。

## 他団体との違い・存在意義の整理

- 日本鍍金協会、十日会と類似する部分がある、工場見学等であれば他既存団体で良い。全鍍連青年部の必要性が弱く感じる（参加者）  
全鍍連青年部会はあくまでも若手（現在は55歳以下）を対象とし、十日会とは会員対象は異なる（執行部）
- 地域・団体によって青年部のあり方が異なる課題（参加者）
- 交流等の場だけではなく、全鍍連事業へ提言できる組織作りが重要ではないか（参加者）
- 青年部会活動で他の会と違う重要な所は、会則の目的である3番なのではないか？深掘したらどうか（参加者）
- 55歳以下であれば、組合青年部会に入会していない方も対象という事をしっかりとPRして頂きたい（参加者）

## 名簿（会員）制度について

- 導入の必要性は、現状は役員名簿のみであり、事業案内が特定の場で滞留し事業の参加を期待する若手に届かない課題解決として、個別配信と役員等の候補者を可視化する為。令和8年度に名簿作成を目指す。（執行部）
- 単組の青年部会会員が自動で全鍍連青年部会会員となる事ではなく、新たに青年部会会員としての登録を希望する方を対象。（執行部）
- 名簿（会員）制度導入の是非は令和8年4月20日総会で決定。（執行部）
- 名簿作成後は、事業によって直参（組合や青年部会等を介さず直接周知・出欠管理）を予定（執行部）
- 正会員の資格は55歳以下の組合員（専業者）を対象（執行部）
- どのような形（メール・FAX）で新規会員募集をアナウンスするのか？（参加者）
- 賛助会員の定義が不明確で55歳以上の専業者は「OB会員」等分かり易い名称がよいのではないか。（参加者）
- 工場見学に薬品会社の賛助会員が参加できない事があるので工場見学などの事業は会員限定とし、交流型イベント（全国大会等）は業者さんも参加可でもよいのでは。（参加者）
- 全国大会 賛助会員が3割参加、顔を知らない人がいる、今後はどうするべきか考えるべき。（参加者）
- 業者さんを賛助として扱う場合は、許認可等をどうするのか（参加者）
- 過度な賛助（業者）依存や高負担は回避すべき。（参加者）
- 地域の活動は賛助会員に手伝ってもらっている、青年部会は親会に縛られずに活動できるようにしたい。（参加者）
- 単組の賛助に入っていれば入会させたらどうか（参加者）
- 業者さんの扱いは総会迄に引き続き青年部会役員にて検討（執行部）

## 年会費導入の是非・設計案と会計運営

- 継続運営・事務委託費・全国大会・工場見学の事業計画の安定化のため年会費を検討。（執行部）
- 令和9年度開始目標（執行部）
- 令和8年度に制度案を議論し令和9年度中に会員全体で総会決議。（執行部）
- 執行部案（たたき台）：正会員（55歳以下専業）年5,000円、55歳超は年10,000円。年会費で不足分は都度参加費を徴収（執行部）
- 賛助（業者）からの会費徴収については、全鍍連本体の賛助会員や、単組賛助会員もあり、トリプル会員で負担増のイメージとならない事も検討する必要があるのではないか（参加者）
- 年会費制ではなく例えば全国大会のような大きな予算が必要な場合は1年前に特別会費（2-3万円/社）を徴収する形でもよいのではないかと（参加者）

- 単組青年部会の会費状況、九青会 24,000 円、東雲会 5,000 円、名鍍会 48,000 円 (参加者)
- ここで業者を入れたら他の会と同じではないか (参加者)
- 賛助会員で会を支えてもらうのは反対。 (参加者)
- 座談会をしたらどうか、会費については賛成 (参加者)
- 

### 先輩経営者との意見交換会 (令和 8 年度より)

- 例年 9-10 月開催。令和 8 年度から青年部中心で企画運営へ移行。(執行部)
- 人材教育 (育成・技術者育成) をテーマに講師選定して頂きたい。 (参加者)
- 先輩経営者との意見交換は全国大会と合わせて開催してもよいのではないかと (参加者)

### その他

- 青年部会ポスター作成・販売で参加促進を検討 (執行部)
- 若手の集いは、最初はただの飲み会だったが、最後は 150 名ぐらいの参加になり、最終的に何かを立ち上げないといけない状況になった。青年部では全鍍連に意見提言ができるようになったら良い (参加者)
- 青年部会ポスターは親会理事長に一括購入を働きかけ販売するなどもっと積極的なべき。 (参加者)

### 周知依頼事項

- 次回の全国大会は令和 9 年 3 月 5 日 (金) 福岡市内にて開催決定  
※R8 予定の会員登録やR9 年の会費徴収是非に問わず参加を依頼
- 本日の意見を踏まえ、参加者は各地域で趣旨・事業内容の周知に協力。

以上

■全国青年部会長会 参加者

組合	氏名	組合役職	会社名	会社役職
東北北海道	小島 康貴	北青会会長	米沢アルミ工業株式会社	代表取締役
茨城	中島 甲一	青年部会長	川井金属化工株式会社	代表取締役
茨城	安原 直洋		株式会社第一エコー電化	代表取締役
群馬	桐原 聡二郎	青年部会長	株式会社エルグ	代表取締役
群馬	武藤 篤	青年部会計	株式会社三和鍍金	代表取締役
埼玉	矢澤 健	青年部会長	ふたば工業株式会社	専務取締役
埼玉	岡田 祥一	直前会長	株式会社大倉	代表取締役
千葉	矢口 高史	青年部会長	株式会社ケーヨーハード	代表取締役
千葉	福井 通人	青年部副会長	福井電化工業株式会社	代表取締役
神奈川	栗原 識	青年部会長	株式会社 大協製作所	代表取締役社長
神奈川	岩瀬 洋一郎	青年部副会長	株式会社 イワセ	代表取締役社長
神奈川	大森 薫	全鍍連青年部会監事	株式会社 薄衣電解工業	代表取締役社長
東京	神谷 昌孝	東雲会会長	神谷電化工業株式会社	代表取締役
東京	志田 啓太郎	東雲会副会長	株式会社ヒロオ	代表取締役社長
東京	梅田 吉男	全鍍連青年部会委員	株式会社梅田製作所	代表取締役
長野	荒井 和章	青年部部長	信光工業株式会社	常務取締役
新潟	横山 慎	青年部会長	有限会社横山メッキ工場	代表取締役
静岡	村松 竜太郎	青年部会長	株式会社村松製作所	代表取締役
愛知	竹中 敬治	名鍍会会長	矢田川電鍍工業株式会社	代表取締役
愛知	伊藤 亮	全鍍連青年部会副会長	太陽電化工業株式会社	代表取締役
三重	岡 星馬		旭鍍金株式会社	品質管理部長
石川	福見 伸也	青年部代表幹事	株式会社シンセー	代表取締役社長
石川	鴻野 健太郎	全鍍連青年部会副会長	石川メッキ工業株式会社	専務取締役
福井	若山 健太郎	青年部会長	株式会社 ワカヤマ	代表取締役
福井	清川 大輝		清川メッキ工業株式会社	
大阪	上田 高嘉	青研会会長	株式会社エコー	専務取締役
大阪	寺内 亮一	全鍍連青年部会監事	日本電鍍工業株式会社	代表取締役
大阪	小林 正和	全鍍連青年部会会計幹事	森脇鍍金工業株式会社	専務取締役
中国	新谷 浩之	中青会会長	新和金属株式会社	代表取締役社長
四国	小松 和弘	青年部会長	有限会社梅田	代表取締役
九州	吉村 浩司	九青会会長	株式会社九州電化	代表取締役
九州	御船 隆	全鍍連青年部会長	株式会社正信	代表取締役
全鍍連	山崎会長			
全鍍連	清水副会長			
全鍍連	金森経営委員長			
全鍍連	服部総務委員長			